

タンク側板探傷 (ファルコンLine-Cat)

足場無しで全面探傷する。減肉傾向がマップ化される。大がかりな検査ではない。

○探傷方法

下図のようにオペレータを含め計3名の検査員を配置する。側板最下段に幅400mmピッチで基準線を罫書き、レーザー墨出器で垂直ラインを明示し、天板に滑車を固定する。オペレータユニットのからワイヤーを張り、側板下部にセットしたスキャナーに接続させる。ウインチでワイヤーを巻きとりスキャナーを上昇走査させ、データの記録を行う。1ライン完了後、順次隣のラインにセットして探傷を繰り返す。

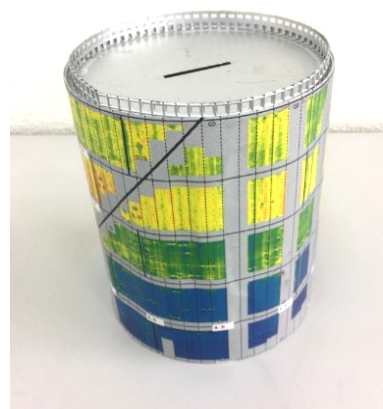
昇降階段および地上部から手の届く範囲に減肉信号を検出した場合は、超音波探傷器で残肉厚を測定する。手の届かない範囲に減肉信号が検出された場合、ファルコンのデータより減肉率を評価する。

探傷処理能力は、約50m³/日である。

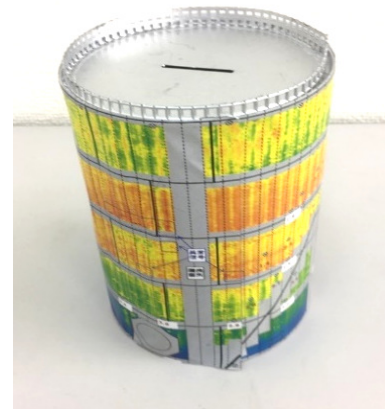


○立体減肉マップ

・全体減肉の側板

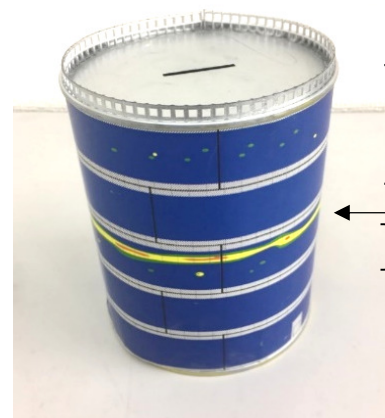


南側



北側

・局部減肉の側板



気相部
局部減肉が点在

液面部
全体減肉が発生

湿乾繰り返し部
局部減肉が点在



側板の減肉傾向は、方角とレベルが関係している。全面探傷をすることで、まだまだ分かることがあると期待している。

